

# Value from Innovation

富士フイルムは、生み出しつづけます。  
人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。  
明日のビジネスや生活の可能性を拡げるチカラになるために。



パテント・リザルト社  
「他社牽制力ランキング2022」

化学業界**1位**

2012年以降、12年連続1位を獲得

国際電気標準会議IEC

トーマス・エジソン賞  
受賞

レッドドット・デザイン賞2023

**27**製品・サービス受賞

うち、2点がBest of the Best賞受賞  
プロダクトデザイン部門で23点が受賞  
ブランド&コミュニケーションデザイン部門で  
4点が受賞

世界におけるブランド認知度  
(当社調べ)

**95%**

複合型ショールーム  
「FUJIFILM SQUARE」累計来館者数

開館以来**800万**名超  
写真展を**1,600回**  
以上開催

Open Innovation Hub<sup>\*</sup>  
累計来場者数・来場社数

**26,000名**  
**5,000社**  
(2023年3月31日現在)

※ 詳細はP45参照

2022年度国内外の企業・団体との  
オープンイノベーション数

**300件**



### 編集方針

本誌は、富士フィルムグループの企業活動に関する情報の中で、特に株主・投資家の皆さまにとって重要度が高い財務情報・非財務情報とともに、イノベーションを軸とした価値創造ストーリーを掲載しています。「ステークホルダーの皆さまに富士フィルムグループが目指す姿をお伝えし、共感いただく」ことを基本コンセプトとし、本統合報告書と「サステナビリティレポート」を連動させて、富士フィルムグループの持続的な成長を目指した取り組みを紹介しています。

### 報告対象期間

財務・非財務データの集計期間は、2022年度（2022年4月～2023年3月）です。活動内容については、2023年4月以降の事業活動も含んでいます。

### レポートの報告対象組織

富士フィルムグループ（富士フィルムホールディングス、および傘下の全連結対象会社）連結対象会社は右記URLに記載しています。 <https://holdings.fujifilm.com/ja/about/group>

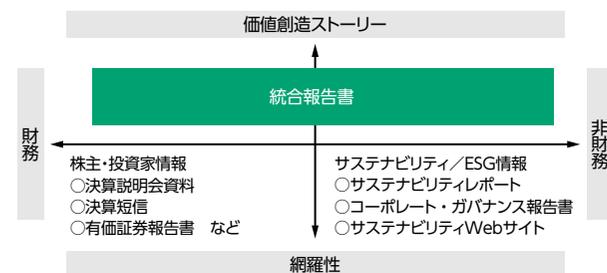
### 参考にした基準およびガイドライン

IFRS財団「国際統合報告フレームワーク」/GRI「サステナビリティ・レポート・スタンダード」/SASB「サステナビリティ会計基準」/経済産業省「価値協創ガイダンス 2.0」/環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」

本文中に記載のあります「健康経営®」は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。



### 統合報告書の位置づけ



- **富士フィルムホールディングスコポレートサイト**  
<https://holdings.fujifilm.com/ja>
- **株主・投資家情報**  
<https://ir.fujifilm.com/ja/investors.html>
- **サステナビリティレポート**  
<https://holdings.fujifilm.com/ja/sustainability/report>

### 統合報告書 表紙について



富士フィルムグループは、多様な人、知恵、技術を融合させながら、自ら変化を作り出し、社会をより良い場所に変えていくという使命の下、事業を展開しています。また、企業文化として「信頼」と「環境保全」に代表されるESG（環境・社会・企業統治）の考え方が根づいています。その中で、お客さまや従業員、株主・投資家などのステークホルダーを表す「人」、イノベーションを生み出し続ける「躍動感」、環境を表す「自然」をテーマに表現しました。

# CONTENTS

## Chapter 01

### 富士フィルムグループの価値創造

- 7 CEOメッセージ
- 13 イノベーションの進化
- 16 富士フィルムグループの独自技術
- 17 価値創造プロセス
- 18 イノベーションを生み出し続ける仕組みと価値の源泉
- 19 富士フィルムグループが目指す姿
- 21 中長期のリスク・機会とマテリアリティ
- 23 事業の全体像
- 25 財務ハイライト
- 26 非財務ハイライト

## Chapter 04

### サステナビリティ

- 71 サステナブル社会の実現に向けた取り組み
- 72 環境
- 75 多様性・働きがい・労働安全性
- 78 人権

## Chapter 02

### 戦略と資源配分

- 29 過去中期経営計画の振り返り
- 31 財務資本戦略 (CFOメッセージ)
- 35 事業別戦略
  - 35 ヘルスケア
  - 39 マテリアルズ
  - 41 ビジネスイノベーション
  - 43 イメージング
- 45 研究開発戦略
- 47 DX戦略
- 50 知的財産戦略
  - 51 知的財産 × メディカルシステム開発 × デザイン  
部門長鼎談
- 56 人材戦略 (人事部長メッセージ)

## Chapter 05

### コーポレート・ガバナンス

- 83 ガバナンス対談
- 86 社外取締役メッセージ
- 87 コーポレート・ガバナンス
  - 96 リスクマネジメント
  - 97 ステークホルダー・エンゲージメント
- 98 経営体制

## Chapter 03

### 特集:ステークホルダーとの価値共創

- 63 ステークホルダーの期待への対応
- 64 株主・投資家
- 65 地域社会
- 68 行政(自治体)

## Chapter 06

### データセクション

- 102 財務分析と評価
- 103 連結財務諸表等
- 107 11年間の財務データ
- 109 5年間の非財務データ
- 110 社外からの評価
- 111 会社概要
- 112 第三者保証/管掌役員保証

# 統合報告書2023のテーマ

富士フィルムグループは、1934年の創業以来、時代の変化や社会のニーズに合致したイノベーションを創出し続け、事業ポートフォリオを変革させてきました。そして、これからも事業を通じて社会課題の解決とサステナブル社会の実現に貢献し続けていくことを目指し、価値創造に向けたさまざまな取り組みを進めています。統合報告書2023では、イノベーションを軸とした価値創造ストーリーを中心に、以下の切り口から開示情報の充実化を図りました。

## イノベーションを生み出し続けるための仕組み

「富士フィルムグループの価値創造」では、創業以来、フィルム事業で培ってきた基盤技術が、どのようにコア技術につながり、未来に続く価値を創造するための技術へと進化してきたのか、さらに人材や技術力といったイノベーションの源泉がどのように事業の発展に寄与し、持続的な成長に寄与してきたのかについてまとめました。また、「戦略と資源配分」では、イノベーションを生み出し続けるための全社戦略とそれを実現するための資源配分の考え方について、財務・資本戦略をはじめ、研究開発、知的財産、DX、人的資本の機能別にまとめました。さらに、メディカルシステム事業における製品開発をテーマとした、組織横断的な知的財産の活用事例について、部門長による鼎談を通じて紹介しています。

### 主なコンテンツ

#### P 7-12 >> CEOメッセージ

リスクをチャンスに変え、迅速かつ確に先手を打つことで、中期経営計画「VISION2023」の売上・利益計画を1年前倒しで達成した2022年度の事業活動の振り返りをはじめ、中期経営計画の最終年度に向けた課題、サステナブル社会の実現に向けたCEO後藤の想いを紹介しています。

#### P 31-34 >> 財務資本戦略 (CFOメッセージ)

中期経営計画「VISION2023」の進捗状況や資本効率・資本構成に対する考え方、株主還元方針などについて説明しています。

#### P 51-55 >> **NEW** 知的財産 × メディカルシステム開発 × デザイン 部門長鼎談

確かな知的財産戦略で、さらなるイノベーションを起こし続けるための富士フィルムグループの取り組みについて掘り下げて紹介しています。

#### P 56-61 >> 人材戦略 (人事部長メッセージ)

人事部長インタビューを通じて、変化を成長のチャンスと捉えて、自ら変化を作り出し続ける人材と風土を育む人材戦略と、富士フィルムグループ全従業員を対象に実施したエンゲージメントサーベイの結果をまとめています。

## ステークホルダーとの価値共創

当社はさまざまなステークホルダーと共創しながら、未来に向けた価値を提供することを目指しています。「特集:ステークホルダーとの価値共創」では、社会課題やステークホルダーからの期待や要望を受け、富士フィルムグループの事業活動を通じて社会にどのような解決策や社会的インパクトを提供しているのかをまとめています。

### 主なコンテンツ

#### P 63-69 >> **NEW** 【特集】ステークホルダーとの価値共創

ステークホルダーからの期待への対応とともに、株主・投資家、地域社会、行政(自治体)との価値共創の取り組みを紹介しています。

## コーポレート・ガバナンス

「コーポレート・ガバナンス」では、取締役会議長と社外取締役との対談や社外取締役メッセージなどを通じて、さらなるガバナンス強化に向けた取り組みについて説明しています。

### 主なコンテンツ

#### P 83-85 >> **NEW** ガバナンス対談

「企業文化の継承に向けて、さらに高い次元のコーポレート・ガバナンスを目指す」ことをテーマに、取締役会議長の助野と指名報酬委員会の委員長を務める社外取締役 北村氏の対談を行いました。取締役会が果たす役割を中心に、さらなる実効性向上に向けた想いを紹介しています。

#### P 89-90 >> 取締役会・監査役会のスキル・マトリックス

2022年度に見直しを行ったスキル・マトリックスについて、各スキル項目の選定理由や作成の考え方・作成のプロセスについて説明しています。

# 富士フィルムグループが大切にすること

## 企業理念

わたしたちは、先進・独自の技術をもって、最高品質の商品やサービスを提供する事により、社会の文化・科学・技術・産業の発展、健康増進、環境保持に貢献し、人々の生活の質のさらなる向上に寄与します。

## ビジョン

オープン、フェア、クリアな企業風土と先進・独自の技術の下、勇気ある挑戦により、新たな商品を開発し、新たな価値を創造するリーディングカンパニーであり続ける。

## コーポレートスローガン

# Value from Innovation

## 私たちはどのように行動するのか

### 企業行動憲章

富士フィルムグループは、次の6原則に基づき、国の内外を問わず、事業活動の展開にあたっては、人権を尊重し、全ての法律、国際ルールを順守し、その精神を尊重します。その上で、活動によって生じる影響に配慮しつつ、イノベーションを通じて持続可能な社会の実現に向けて自主的に行動します。

1. 信頼される企業であり続けるために
2. 社会への責任を果たすために
3. あらゆる人権を尊重するために
4. 地球環境を守るために
5. 従業員が生き生きと働くために
6. さまざまな危機に備えるために

### 行動規範

わたしたちは、事業活動のあらゆる局面において、コンプライアンスを重視し、新たな価値創造に挑戦します。ビジネスの利益や他者からの要求がコンプライアンスと衝突するときは、コンプライアンスを優先します。“オープン、フェア、クリア”の精神で臨む、それがわたしたちの基本です。

- ・ 人権の尊重
- ・ 公正な事業活動
- ・ 会社資産・情報の保全、保護
- ・ 環境の保全・保護

## 私たちはどのように実現していくのか

### 長期CSR計画

## Sustainable Value Plan 2030

2030年度をゴールとする長期目標であり、富士フィルムグループが持続的に発展していくための経営の根幹をなす計画です。「事業を通じた社会課題の解決」と「事業プロセスにおける環境・社会への配慮」の両面から、4つの重点分野「環境」「健康」「生活」「働き方」と、事業活動の基盤となる「サプライチェーン」「ガバナンス」における目標を設定し、サステナブル社会の実現に貢献することを目指しています。

### 中期経営計画

## VISION2023

2021年4月、富士フィルムグループは「Sustainable Value Plan 2030」の目標を実現するために、ヘルスケアと高機能材料を中心に成長を加速させる具体的なアクションプランを策定しました。